第４分科会　豊かな人間性　健やかな体

【研究主題】豊かな人間性と健やかな体を育むカリキュラム･マネジメントの推進

Ⅰ　研究発表と協議

【協議題①】

新たな社会を見据えた人権教育と豊かな心を育てる道徳教育の推進

＜発表題＞

「教職員の人権問題に関する基本的認識向上のための取組」

熊本県菊池市立戸崎小学校　校長
川田　直樹

＜発表概要＞

人権教育をとおして，自分の大切さとともに他の人の大切さも認め，それが態度や行動に現れる児童を育成し，児童が今後、答えのない社会に向き合っていくためにも「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」にある人権尊重の理念を児童に身に付けさせていく必要がある。

さらに，いじめや不登校の未然防止の取組，ＳＮＳでのトラブル等様々な課題もあり，校長のリーダーシップのもと，新たな社会を見据えた人権教育の推進のために，カリキュラム・マネジメントを推進し，教職員の人権問題に関する基本的認識の向上を図り，本研究主題に取り組んでいくことは，学校経営の推進に欠かせないことと考える。

(1)　職員の研修体制づくり
　①　人権教育推進のための方向性の確認
　②　人権教育に関する校内研修等の取組
　③　関係機関との連携

(2)　児童の学習活動
　①　年間指導計画に沿った人権学習
　②　児童会活動の取組
　③　戸崎校区人権教育連絡協議会と連携した取組

(3)　校長の人権教育推進のための連携
　①　菊池市人権・同和教育推進協議会学校教育部会との連携
　②　菊池郡市小・中学校長会

＜協議の概要＞

(1)　戸崎小学校では，年間10回の人権教育に関する校内研修が充実するよう，校長と人権教育主任が連携を密にし，研修体制づくりや計画を進め，地域に根差した人権教育にしっかり取り組まれている。児童の自己肯定感の向上や，教職員の児童理解が進んだことなど見事に成果に表れている。

(2)　企画・立案に関して，まずは校長自身の高い人権意識が大切である。それぞれの学校の実態や地域の特色を生かした取組を進めていくべきで，研修内容が形骸化しないよう，組織としてどのように取り組むのかを明確にすることや人材を育成していくことに校長が指導力を発揮していきたい。

(3)　効果的な教育活動として具現化するため，段階的に研修を進めていきながら，取組内容や成果，個々の伸びなどの見える化を図っていくことを大切にしたい。また，教職員や児童の自信につながるよう認めたり褒めたりするタイムリーな言葉掛けを行っていくことも大切にしたい。

(4)　人権教育を学校の全ての教育活動の根本に据えていかなければならない。それぞれの学校や地域の実態に合った効果的な研修を企画・立案し，当事者から学び，正しい認識をいかに高めていくようにするかが校長のリーダーシップを発揮するところではないか。若手教員の育成を含め，学校組織として，人権に関する知識や認識を高めていくことを常に意識していきたい。

【協議題②】

たくましく生きるための体力向上や健康づくりを目指す教育活動の推進

＜発表題＞

総合的な体力の向上と生きる力の育成
～保護者・地域との連携を深め，健康教育の個別最適化を図る活動を通して～
長崎県平戸市立根獅子小学校　校長
村川　司麻

＜発表概要＞

学校や地域の状況，コロナ禍の影響もあり，体力テストにおける児童の筋力低下や姿勢や舌の安定を保つことができないことによる歯並びの乱れという課題が見られた。これらは給食時の咀嚼や残菜，学習の集中力にも影響を与え，更には，体の成長や学力の低下にも影響を及ぼしていると考える。

上記の課題を解決するために，学校教育目標の重点的な取組の一つとして「総合的な体力の向上と生きる力の育成」を掲げ，健康教育に取り組んでいる。児童の課題の解決については，学校だけでは解決できる問題ではなく，保護者や地域と密に関わりをもちながら，児童一人一人の実態に合わせて，それぞれが意識を高めて取り組む必要がある。そこで，サブテーマを「保護者・地域との連携を深め，健康教育の個別最適化を図る活動を通して」と設定した。

(1)　学校における個別最適化を図った継続的な健康教育の推進
　①　健康教育カリキュラムの策定及び共通実践
　②　個別最適化を図った「歯や姿勢」の健康教育
　③　個別最適化を図った「体力向上」の実践
　④　児童理解，共通実践のための共有の場作り
　⑤　通信等を活用した健康教育の啓発

(2)　保護者との連携による親子で考える健康教育の充実
　①　健康教育の知識・関心，視野を広げるための学校保健委員会の企画・提案
　②　四者（保護者・ＰＴＡ・担任・養護教諭）連携の個別実践カードの取組

(3)　地域との連携による健康教育の深化を目指して
　①　歯科校医との連携を図った取組
　②　地域諸団体との連携を図った取組
　③　主任児童委員等との連携を図った取組

＜協議の概要＞

(1)　「企画，立案段階における校長の指導性の面から」は，校長として学校（児童）の課題，実態を正確に把握し，その上で解決に向けての具体的実践（企画，立案）をされている。また，課題の関連付け（歯と姿勢）は，保護者が納得できる提示であった。

(2)　「効果的な教育活動として具現化する段階における校長の指導性の面から」は，校長として，児童や保護者，教職員の意識をどう変えられるか，という点を課題として捉え，学校，家庭，校医とつながり，組織的に取り組まれている。

(3)　学校の取組として，健康教育カリキュラムに，保健教育（歯と姿勢），ねしっこタイム（体力づくり），学校保健委員会（PTA活動）等をきちんと位置付け，全職員で共通理解をし，実践されている。また，保護者との連携（親子ブラッシングタイムやねしっこ元気カード，姿勢の講演会等）や地域との連携（ドッジビー大会，中部マラソン大会等）により，健康増進への意識がより高まっている。

(4)　児童一人一人の実態に即した取組がされており，小規模校ならではの保護者や地域，歯科校医との連携ができている。そのため，児童の健康活動が意識的に継続できている。

Ⅱ　まとめ

健康教育については，各学校の規模や地域性があり，取組についてはそれぞれ異なるが，校長として学校全体を見渡し，どことつなぐのか多面的に見て判断していく必要がある。また，児童の実態を把握した上で，校医だけではなく，保護者や地域と共通理解し，連携をとりながら児童一人一人に即した実践に取り組んでいくことが，体力の向上と生きる力の育成につながると考える。